学びのひろば旭

vol.66

旭市教育委員会
庶務課（☎55-5721）　生涯学習課（☎55-5727）
学校教育課（☎55-5724）　体育振興課（☎64-1132）

学校の働き方改革

学校の働き方改革の目的は、教職員が心身ともに健康を保つことができる環境を整え、子どもたちに対し効果的な教育活動を、持続的に行えるようにすることです。

学校の先生の労働時間を調査

市内ほとんどの学校では、午前８時から午後４時30分までが教職員の勤務時間です。市ではパソコン管理による出退勤記録を基に、平成30年６月と11月のそれぞれ１か月間、小中学校の労働時間を調査しました。６月の調査では小中学校教職員の約４人に１人が、過労死ラインとされる、時間外勤務の月80時間を超えているという実態でした。

改善に向けた教育委員会の取り組み

●働き方改革実行委員会を設置

小中学校の代表校長と教育委員会の関係課で、年４回の会議を行いました。学校現場からの声を反映させながら、働き方改革、業務改善を推進しています。

●部活動指導に関する取り組み

部活動の方針を策定し、適切な活動時間を設定しました。週２日以上の休養日を設け、練習は平日２時間程度、休日は３時間程度としました。来年度からは新たに部活動指導員制度をスタートさせ、部活動の外部指導者の派遣を充実させます。

●教育の充実と教職員の負担減を目指して

スクールカウンセラーや教諭補助員を増員し、教職員の負担を減らしながら、これまで以上にきめ細かく児童生徒を支援するため、子どもや保護者、教職員からのさまざまな相談に対応ができるよう体制を充実させます。

そのほかの取り組みとして、教育委員会から学校へ発送する文書の減量を進めるとともに、研修会の見直しと研究指定校制度を終了します。

工夫を凝らした学校の取り組み

学校の種類や規模、地域性など学校の実情に応じた取り組みを進めています。

○校内行事の内容や回数などの見直し
○時間割の工夫による日課の変更
○成績処理などに要する時間の確保
○ＰＴＡを含めた各種会議の内容や回数の見直し

教育委員会では、働き方改革実行委員会による協議を来年度も継続し、学校の働き方改革の推進に努めます。

あさひ輝いた人々

第７回

農業書などを出版

宮負 定雄（みやおい やすお）（1797～1858年）

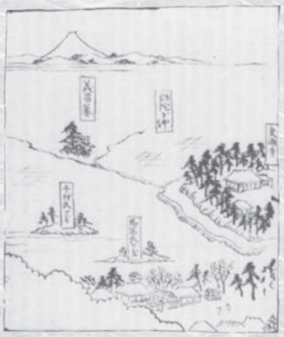
宮負定雄は大原幽学と同じ、江戸時代末期に生まれました。農民であり、国学者でもあり、数々の農業書や地域の様子を書いた本も発行しました。

寛政９（1797）年に宮負定賢（やすまさ）の長男として松沢村（現在の清和乙）で生まれ、幼名を門蔵（紋蔵）といいました。村名主の家に育ち、子どものころから勉学に努めました。文政９（1826）年、江戸に出て国学者平田篤胤（あつたね）の門人となり、篤胤の七大門人の一人に数えられています。

このころ農作物を効率良く栽培するための「農業要集」という本を書き、平田篤胤のあっせんで出版しました。この本は江戸時代の農業書として有名な、宮崎安貞の「農業全書」と並び称される本といわれています。また農作物の種子の選定技術を書いた「草木撰種録」も発行し、農業技術の向上に大きな役割を果たしました。

天保２（1831）年に父の後を継いで、松沢村の名主になり、自らを松沢村の芋掘り名主と呼んでいました。自分は庶民的な名主で、悪事を働くことがない名主であるということからだそうです。しかし数年で名主を長男に譲り、平田篤胤の手伝いや各地を旅して過ごすようになりました。

そのころ発行したのが「下総名勝図絵」です。下総（現在の千葉県北部）の有名な場所を説明し、挿絵も添えてあります。今では見ることのできないものも描かれていて、歴史的価値が非常に高く、後に国書刊行会から復刻されました。また下総から紀伊（現在の和歌山県）に向けて旅立ったとき、その道中で遭遇した安政東海大地震の記録「地震道中記」「地震用心録」など数々の本を発行し、地震に遭ったときの心構えなどを伝えています。



下総名勝図絵